

NPO設立への想い

20021114

平成14年5月11日土曜日。車で阪奈道路を走行中、渋滞に巻き込まれふと前方の風景に目を止めた。「生駒山に太陽が沈む、まさにその瞬間でした。51歳という年齢が夕日と重なって見えこのまま自分の人生も日没を迎えるのかなあ・・・と、ふと思ったんです。」
休み明けの13日(月)25年間勤めた会社に辞表を出した。

卒業後、大手ゼネコンを経て再就職した会社。GISやGPSを使ってシステム開発・販売をする従業員400人ほどの企業だった。入社5年目で支店長に昇進し、単身赴任の転勤は20回を越えた。バブル不況が会社を襲う。「売上がすべて」という中で「売るのではなく、売れる仕組み作りが重要」と経営者に進言、その結果が窓際に。私には夢があった。ライフワークでもある地理情報、位置情報システム(GIS)の研究だ。GISは、地図とコンテンツと位置情報を組み合わせたシステムで、自治体など限られた業務に使われていたが、今ではカーナビ・マンナビ・防災・防犯など地域安全のコミュニケーションツールとして、あらゆるシーンでの用途が期待されている。

平成7年1月17日に発生した阪神淡路大震災後、インフラ基盤整備の重要性が再認識された。この基盤整備が急速に推し進められていたさなか、戦後初めての右肩下がりの経済に遭遇し、かつて経験したことのない負の時代に突入した。
このような環境の中、GIS総合研究所をNPOとして立ち上げ、平成15年12月1日内閣府認証された。

現在11人の理事、監事1名、相談役1名、顧問5名、63名の会員と総勢81名で構成されている。第一線で活躍する実務経験者、研究者たち。日々汗をかいて使命感に燃えているNPO団体に技術的な支援ができればとの思いから大阪NPOセンターに入居した。

「NPOでも欧米では国を動かす大きな力をもっています。今はまだ無給ですが、我々のやろうとしていることは、いわば日本型の新しい地域社会貢献活動です。」

小さな個人が大きな事業に取り組む環境(場)を提供し、共鳴していただける皆様と(共同、協働)できるNPOでありたいと願っています。(地理・位置・時間・空間)社会情報をもっと身近なサービスを中心とした事例に置き換え、使う側に立った視点での物づくりと認知を広めていくことが最も大切だと思います。社会情報技術で夢を創造、創出し「住んでみたい街づくり」支援で社会貢献することです。

安全で快適な「住みたいまちづくり」をつくることが使命です。

私の好きな言葉「人生太く長く、生涯現役」
特定非営利活動法人(NPO)GIS総合研究所
川添博史